

天上では全能の神ゼウスが文豪トルストイと才女の紫式部を呼んで地上の様子を聞いている。

元日に、それぞれの分身たちが地上に降り、言葉の乱れを正そうとしているのだが、思うように進展していない。

ゼウスは十か月かけても成果がさほど得られないことに落胆し、人間が使える言語を一つにしてしまう計画を打ち明けた。

その言語には敗戦後、戦争の放棄を憲法で定めているということによって日本語が選ばれた。

ついでには分身たちをさらに派遣して日本語の普及に努めるように、とゼウスはトルストイと紫式部に命じた。

ゼウスの決断により、日本語を母語としない人々に翻訳用の眼鏡が装着された。

全ての文字が日本語に翻訳されて表示される。それぞれの母語に翻訳された字幕が眼鏡のレンズに映し出される。

会話は日本語に翻訳して眼鏡に内蔵されたスピーカーから発せられる。脳で考えたことが全て翻訳されてしまうので秘密が漏れてしまう。聞く人は母語に翻訳された字幕を見て理解することになる。

通貨は円に統一された。紙幣が大量に印刷されたが、二千円札が人気である。まさに神業で世界中に日本語があふれていく。

多くの人が眼鏡のレンズに映し出される字幕を見ながら呆然としている。